

令和5年度 生涯教育研修会カリキュラム

基:基本研修
実:実務研修

公益社団法人 山梨県栄養士会 (2023.5.14)

日時	オンデマンド配信期間(予定)	講演・演習	番号は、基・実別の項目番号、()内:認定分野別名、太字は当日の担当職域事業部)	演題および講師	ご講演の内容
6月17日(土) 一宮桃の里ふれあい文化館	14:30~16:00	6月30日(金)~7月17日(月)	①講 実務 61-102 (福・公・地)	富士山噴火災害について学ぶ 山梨県富士山科学研究所 富士山火山防災研究センター センター長 石峯康浩 氏	噴火災害は、火山を抱えた他県栄養士会でも重要視されており、災害対策に積極的に取り組まれています。富士山の噴火は現実には起こりうる災害と考えられています。「噴火災害に備えたいと思っても、何が起るか、何が必要かわからない」職域により、食事提供での対策や、避難所対応に必要な事柄など、立場で必要な対応が変化します。県民の健康を守るため、効果的な事前対策や、有事の際にたしかな行動を実行するために、富士山噴火災害について最新の知識を学びましょう。
7月22日(土) びゅあ総合中研修室	10:00~11:30	8月11日(金)~8月28日(月)	①講 実務 23-113 (福・公・地)	乳幼児期の食支援について ※会場集合型ZOOMライブ研修 東洋大学福祉社会デザイン学部 非常勤講師 太田百合子 氏	成長・発達が著しい乳幼児期には、この時期ならではの「食の悩み」が多方面にでてきます。また、保護者が悩むポイントも様々で、支援側には確かな知識とバラエティー豊かな提案力が必要とされます。今回は、育児雑誌の監修など数々の現場で支援を行っている太田先生より乳幼児期の食支援について実践的な視点も含めながらご講演いただきます。
	12:30~14:00		②講 実務 23-122 (福)	看取り期の栄養管理について JA愛知厚生連豊田厚生病院 栄養管理室栄養管理第1課長 森 茂雄 氏	高齢者の栄養ケア、看取り期に必要な栄養について、身体に負担をかけずに最後まで口から食べられる支援の仕方などをご講演いただきます。
	14:10~15:40		③講 実務 21-110 (公)	まちぐるみで取り組む食環境整備 ~減塩のアプローチ~ ※会場集合型ZOOMライブ研修 岐阜県下呂市役所市民保健部 部長 森本千絵 氏 健康医療課 管理栄養士 山下庸恵 氏	市内の14の団体が参画する減塩推進委員会を中心に、市民ぐるみの減塩作戦を展開し、厚生労働省主催の「健康寿命をのばそう!アワード」で厚生労働大臣最優秀賞を受賞した取り組みについて、取り組みの輪が拡大していった経緯や、多くの方を巻き込んでいくポイントについてお話いただきます。
8月26日(土) びゅあ総合中研修室	10:00~11:30	9月15日(金)~10月2日(月)	①講 実務 23-107 (医・公・地・福)	管理栄養士・栄養士として知っておきたい小児糖尿病 山梨大学医学部小児科 特任准教授 矢ヶ崎英晃 氏	糖尿病のある子どもの栄養管理には、管理栄養士を始めとした医療従事者からの関わりが重要であるものの、特に小児1型糖尿病については、その発症率の低さから、これまで子ども達と関わったことのない方も多いと思われます。本講演では、日々の診療に加え、長年、山梨県における小児糖尿病サマーキャンプを通じて子ども達を支援されている矢ヶ崎先生より、小児糖尿病の臨床的特徴や支援の課題等についてご講演いただきます。
	12:30~14:00		②講 実務 25-102 (福・学・公・地)	栄養素と遺伝子発現 松本大学大学院 健康科学研究科 教授 山田一哉 氏	栄養素の代謝は、生体の様々な機構により調節されています。一方で、その栄養素自体が、遺伝子の発現を調節しているものもあり、病気の予防や健康維持に寄与する可能性も示唆されています。栄養素による遺伝子発現のメカニズムを理解することで、科学的根拠を持った栄養管理を実践できるのではないのでしょうか。栄養素・食品成分と代謝に関連する遺伝子発現の研究を多数発表している講師に、最先端の研究結果も交えながらご講演いただきます。
	14:10~15:40		③講 実務 46-113 (公・地・福)	アドラー心理学に学ぶチーム力の高め方 YELL&SMILE 功刀京子 氏	アドラー心理学とは、いわば「幸せに生きるための心理学」です。日頃、職場の人間関係に悩んでいませんか。自分や部下のやる気を引き出したり、職場のチームワークを高めるためのエッセンスをご講演いただきます。
10月7日(土) びゅあ総合中研修室	10:00~11:30	10月27日(金)~11月13日(月)	①講 実務 21-110 (公)	「食環境づくり」を通じた健康へのアプローチ ~減塩の取組み事例より~ 淑徳大学 看護栄養学部 栄養学科 講師 坂口景子 氏	健康日本21(第二次)の最終評価では、食環境整備は改善傾向にあるが、個人の食習慣改善には必ずしもつながっていない状況が示されました。したがって、行動変容とその継続につながるような食環境整備の強化が急務の課題です。減塩の取組み事例を共有し、管理栄養士・栄養士としてそれぞれの現場では何ができるかを考え、次の一歩につなげる機会にしたいと思います。
	12:30~14:00		②講 実務 47-102 (学)	食育の実践と課題 武庫川女子大学 教育学部 教育学科 准教授 藤本勇二 氏	食育において主体的・対話的で深い学びを実現するためには、自分ごとの問題解決をすることが必要です。子どもの関心事を大切に、活動を通して子どもから引き出す、有能な学び手としての子ども観に立つ、こうしたことを前提に授業をつくることが求められます。アフターコロナ時代の食育も交え、食育の実践と課題についてご講演いただきます。
	14:10~15:40		③講 実務 21-101 (地・公)	時間栄養学を用いた夜勤勤務、交代勤務などの変則的な勤務を対象とした健康づくりの取組み方 ~いつ、何を、どう食べるかで健康管理~ ※会場集合型ZOOMライブ研修 早稲田大学先進理工学部電気・情報生命工学科 教授 柴田重信 氏	現在様々な生活スタイルがあり、夜勤勤務の方、交代勤務の方、消防士などの1日勤務の方など、多種多様な生活スタイルの方がいます。一般的な生活スタイルと違った方には、どのような事で健康づくりに気を付けていけば良いのかを時間栄養学の観点からご講演いただきます。
12月16日(土)	10:00~11:30	2024年1月5日(金)~1月22日(月)	①講 実務 23-118 (福・医・公・地)	栄養サポートにおける嚥下評価と嚥下訓練の進め方 山梨厚生病院 耳鼻咽喉科 医長 芦澤 圭 氏	栄養サポートにおいては、しばしば摂食嚥下の問題に直面します。患者の状況に応じた対応やアドバイスが求められますが、そのためには一人ひとり異なる嚥下に関する問題を正確に把握することが必要となります。さらに実臨床に際しては、同等度の嚥下障害があっても、患者それぞれが目指す目標によって対応が変わることも経験します。嚥下評価からアプローチする栄養サポートについて、耳鼻科医の視点から解説いたします。
	12:30~14:00		②演習 基本 4-3栄養アセスメント (全分野)	管理栄養士の目線で診る病態評価と栄養管理への活用 ※会場集合型ZOOMライブ研修 社会医療法人近森会 近森病院 臨床栄養部 部長 宮島 功 氏	管理栄養士の目線で、現病歴、既往歴、バイタル、治療、血液生化学検査を評価した上で、「病態を評価」から「栄養管理」につながる手法をご講演いただきます。1コマ目は症例を読み解くための基本的知識の解説(バイタルや血液検査、病態の説明)2コマ目は、前半部分を応用し症例から病態を評価し栄養管理に繋げる方法を考えます
	14:10~15:40		③演習		
2024年2月3日(土)	10:00~11:30	2024年2月23日(金)~3月11日(月)	①講 実務 412-102 (公・学・地・福)	学校給食における地産地消の推進 袋井市教育委員会 おいしい給食課 おいしい給食推進係 石塚浩司 氏	学校給食を軸に、多様な施策課題を解決し、「地方公務員が本当にすごい!」と思う地方公務員アワード2020を受賞した経験により、生産者との連携、実体験を通じた食育活動、環境を意識した農福連携、姉妹都市交流についてご講演いただきます。
	12:30~14:00		②講 実務 411-101 (医・地)	これから山梨県内で管理栄養士が在宅医療・介護に必要な職種になるために心がける事 ~これまでの事例を通じて~ 上條内科クリニック 院長 上條武雄 氏	栄養ケア・ステーション事業の「在宅訪問栄養食事指導」を進めていく中で、人材育成を行う事が急務の課題となっています。今回は、在宅医の先生に「栄養・食」について、専門職として信頼して任せいただくために必要である「基本的な学びと必要なスキル」についてご講演いただきます。そして、今後自信をもって事業に取り組んでいけるように準備していきましょう。
	14:10~15:40		③講 実務 23-118 (福・医・公・地)	歯と口の健康と食育 医療法人慶明会 湯村歯科医院 院長 寺野 肇 氏	食べることは人間にとって最も重要であり基本です。しかしながら虫歯や歯肉炎、歯周病、欠損、食癖、咬合異常によってもたらされる「食べる」ことが出来なくなってしまう。消化、生活QOLの向上、心身の成長の為、幼少の時から食育がどのように大事か、発育に影響するかについて、また高齢者において、今からの食育がどのように関わることについてご講演いただきます。

分野別：臨床 R、学校 G、健康・スポーツ KS、給食管理 K、公衆 P、地域 T、福祉(高齢者・障がい者) FS、福祉(児童) FG の各栄養分野

生涯教育の構成：生涯教育は、「栄養の指導」の専門職として各領域で必須とされるスキルを習得する基幹教育と、専門とする分野ごとにさらにその専門性を高める拡充教育があります。

基幹教育は、専門知識・技術の習得と実践力をつけ、対象者の状況に関わらず一人ひとりに応じた適切な「栄養の指導」ができることを目指し、基本研修と実務研修に分かれています。

基本研修は、管理栄養士・栄養士としてのミニマムスタンダード(守られるべき最低限の基準。最低水準)を身につけることを目的としています。(日本栄養士会が実施しているe-learning研修をご活用ください。)

実務研修は、専門とする分野に特化される知識と技術を習得することを目的としています。(対面又はWebで学習します)

基本研修30(うち必須単位20)単位、実務研修30(臨床栄養分野は40)単位受講すると、認定試験の受験資格が得られ、これに合格すると専門分野別の〇〇認定管理栄養士・〇〇認定栄養士として認定されます。**この制度は、熟練した栄養に関する技術と知識を用いて、「栄養の指導」について責任をもって実践できるレベルに到達した事を日本栄養士会が認めるものです。**

拡充教育は、専門領域の特定の分野におけるさらに高度で詳細な専門知識・技術、学術(教育・研究スキル)を向上させるものとして位置づけられています。

拡充教育は特定分野の研修とマネージメントリーダー研修、専門研修に分けられていますが、今後のさらなる発展を検討中です。

まずは、受講してみましょう。スタッフ・受講者はみんな同じ仲間です、教え・教えられながら、少しずつスキルを上げていきましょう。